

2018年3月13日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 1番5号 PMO 日本橋江戸通
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報課 03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

フレキシブル/フォルダブルディスプレイ用 静電容量式タッチパネルの世界市場を調査

2022年の静電容量式タッチパネル世界市場予測

フレキシブルディスプレイ用は5,100億円

・・・スマホのフラグシップモデルを中心に採用が広がり、大幅拡大

フォルダブルディスプレイ用は600億円

・・・2020～21年ごろから採用したスマホの量産が本格化

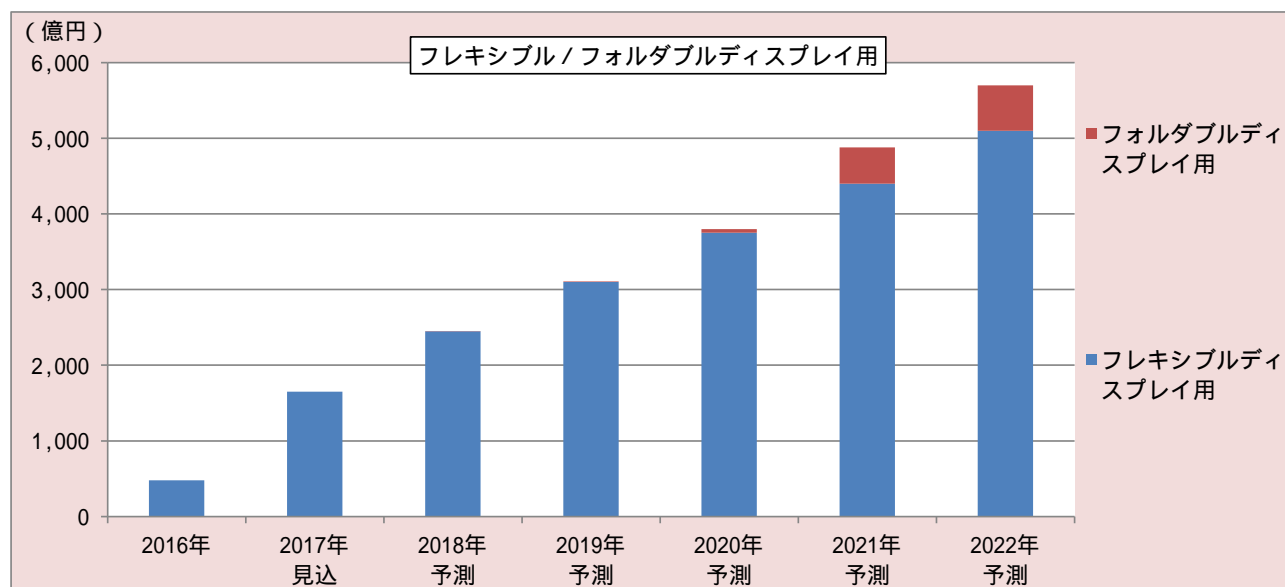
総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、フレキシブルディスプレイ用とフォルダブルディスプレイ用の拡大が期待される静電容量式タッチパネルの世界市場を調査した。

その結果を「2018 タッチパネル/フレキシブルディスプレイと構成部材市場の将来展望」にまとめた。

この調査では、静電容量式タッチパネルとフレキシブルディスプレイ、それらの構成部材の市場動向と、タッチパネルメーカー、フレキシブルディスプレイメーカーの事業体制を明らかにした。

<注目市場>

フレキシブル/フォルダブルディスプレイ用静電容量式タッチパネルの世界市場



フレキシブルディスプレイ用静電容量式タッチパネルの市場は、2016年にSamsung E1の「Galaxy S7 edge」やAppleの「Apple Watch」にフレキシブルAMOLEDが採用されたことで480億円（5,000万枚）となった。2017年はSamsung E1の「Galaxy S8」シリーズや「Galaxy Note8」、Appleの「iPhone X」にもフレキシブルAMOLEDが採用されたことで、市場は前年比3.4倍の1,650億円（1億8,000万枚）が見込まれる。

今後、2018年から2019年にかけてはBOEをはじめとした中国パネルメーカーもフレキシブルAMOLEDの供給を開始するため、スマートフォンのフラグシップモデルを中心に採用が広がり、大幅な伸びが期待され

る。以降も市場は順調に拡大すると予想される。

折り畳むことが可能なフォルダブルディスプレイ用は2018年後半から供給が開始され、Samsung E1、LG E1、Huawei、Xiaomiなどから採用したスマートフォンが発売され、市場が立ち上がるとみられる。2020年ごろからフォルダブルディスプレイ用を採用したスマートフォンがフラグシップモデルに位置付けられるようになり、量産が本格化し、2022年に市場は600億円(6,000万枚)が予測される。

< 調査結果の概要 >

1. 静電容量式タッチパネルの世界市場

	2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
全体	3兆 800億円	101.3%	3兆2,000億円	105.3%
フレキシブル	1,650億円	3.4倍	5,700億円	11.9倍

：フレキシブル/フォルダブルディスプレイ用

静電容量式タッチパネルは、これまで抵抗膜式タッチパネルが一般的であった車載ディスプレイでその代替としての採用が進んでいるが、スマートフォンに続く需要の大きな用途はあらわれておらず、市場の伸びは鈍化している。2021年まで市場は微増、2022年にはマイナス成長(数量ベースでは微増)が予想される。市場のおよそ三分の二がガラス基板、三分の一がフィルム基板であり、2022年の市場はガラス基板が2兆200億円、フィルム基板が1兆1,800億円と予測される。

フレキシブル/フォルダブルディスプレイ用はスマートフォンで採用が進んでおり、2017年には1,650億円が見込まれ、2022年には5,700億円が予測される。全体に占める割合は2017年の5.4%から17.8%へと拡大する。

静電容量式タッチパネルの主要用途はスマートフォンである。スマートフォン市場は先進国では伸びが鈍化しているものの、世界的には伸びており、特に、中国のスマートフォンメーカーを中心に静電容量式タッチパネルの需要も増加している。また、今後はハイエンドモデルを中心にフレキシブルディスプレイ用の需要が増加するとみられる。タブレット端末向けは、タブレット端末市場が微減しており、需要の増加は期待できない。認知度向上によりスマートウォッチ(バンド)向けの需要も高まったが、今後伸びは鈍化するとみられる。ノートPC市場は縮小するが、ペン入力機種が増えており静電容量式タッチパネルの需要は微増が予想される。車載ディスプレイ向けは抵抗膜式タッチパネルからの移行により需要が増えている。その他用途として、オールインワンPC向けはほぼ横ばいが予想される。

2. 静電容量式タッチパネル主要構成部材の世界市場

	2017年見込	2016年比	2022年予測	2016年比
フレキシブル基板材料	16億円	3.2倍	130億円	26.0倍
位相差フィルム	68億円	4.9倍	296億円	21.1倍

フレキシブル基板材料は、フレキシブル/フォルダブルディスプレイ用静電容量式タッチパネルに用いられる成型フィルムとフレキシブル/フォルダブルAMOLEDディスプレイのTFT基板に用いられる成型フィルムを対象とする。位相差フィルムは、フレキシブル/フォルダブルAMOLEDディスプレイ用円偏光板に使用される。液晶塗布型の光学補償フィルムも対象とする。

いずれもフレキシブル/フォルダブルディスプレイ用の静電容量式タッチパネルの市場に連動する。フレキシブルディスプレイ用の市場はスマートフォンへの採用が進んでおり、フォルダブルディスプレイ用も今後採用が始まるとみられることからフレキシブル基板材料と位相差フィルムの市場も今後拡大が予想される。なお、ハイバリアフィルムや円偏光板といった部材もフレキシブル/フォルダブルディスプレイ用の市場に連動して拡大する。

【調査対象】

タッチパネル/タッチセンサー	
1. フィルム基板静電容量式タッチパネル	4. フォルダブルディスプレイ用静電容量式タッチパネル
2. ガラス基板静電容量式タッチパネル	5. フォースセンサー
3. フレキシブルディスプレイ用静電容量式タッチパネル	
タッチパネル/フレキシブルディスプレイ部材	
1. ITOフィルム(静電容量式用)	12. OCR
2. Agメッシュフィルム	13. ターゲット材
3. Cuメッシュフィルム	14. 引き出し配線用導電性ペースト
4. Agナノワイヤフィルム	15. 円偏光板
5. IMフィルム・HCフィルム	16. 位相差フィルム
6. フレキシブル基板材料	17. PIワニス
7. カバーガラス	18. 封止用シール剤
8. カバーシート	19. ハイバリアフィルム
9. 高・低屈折率コーティング剤	20. カバーフィルム
10. 表面防汚コーティング剤	21. カバーフィルム用ハードコーティング材
11. OCA	
フレキシブル/フォルダブルディスプレイ	
1. フレキシブルディスプレイ	2. フォルダブルディスプレイ
メーカー事例分析	
1. タッチパネルメーカー 8社	2. ディスプレイメーカー 8社

【調査方法】

富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

【調査期間】

2017年11月～2018年2月

以上

資料タイトル：「2018 タッチパネル/フレキシブルディスプレイと構成部材市場の将来展望」	
体	裁：A4判 344頁
価	格：書籍版 150,000円+税 PDF+データ版 160,000円+税 書籍/PDF+データ版セット 180,000円+税 ネットワークパッケージ版 300,000円+税
発	行 所：株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通 TEL：03-3664-5811(代) FAX：03-3661-0165 URL： https://www.fuji-keizai.co.jp/ e-mail： info@fuji-keizai.co.jp
調	査・編 集：東京マーケティング本部 第五部 TEL：03-3664-5821 FAX：03-3661-9514
この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL： http://www.group.fuji-keizai.co.jp/	